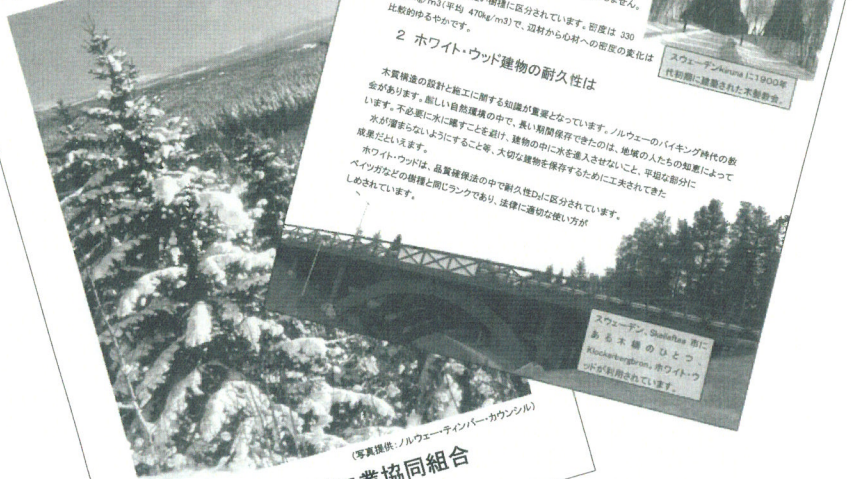


要するに

●水に何年もぬればヒノキやスギより腐りやすいが、ぬれなければ差はない  
●腐らせないために、適切な施工方法や防腐処理、メンテナンスが欠かせない

ホワイト・ウッドはどんな



日本集成材工業協同組合

上のパンフレットを作成した日本集成材工業協同組合専務理事の黒木亮さんは「屋外の暴露試験で、住宅の柱材の耐朽性を議論するのはおかしい。集成材は含水率が15%以下なので、腐朽菌は繁殖しにくい」と反論する

●住宅性能表示制度の柱材の規定

JASの耐久性区分	劣化等級区分	等級3	等級2
D1	ヒノキ、ヒバ、スギ、カラマツ、ベイヒバ、ベイマツなど	通気工法のヒノキ、ヒバの小径は10.5cm以上、ヒノキ、ヒバ以外は小径12cm以上 非通気工法はK3相当の防腐防蟻処理	通気工法も非通気工法も薬剤処理なし
D2	ホワイトウッド、ベイツガ、アカマツ、ツガ、クロマツ、トドマツ、エゾマツなど	通気工法は地面から1m以内を薬剤処理もしくは小径13.5cm以上とする 非通気工法はK3相当の防腐防蟻処理	通気工法は薬剤処理なし 非通気工法は地面から1m以内を薬剤処理もしくは小径12cm以上とする

住宅品質確保促進法に使用方法は記されている(上の表参照)。ホワイトウッドの柱で劣化等級3を取る場合は薬剤処理が必要となることなどだ。それでも榎戸さんは、「水を吸いやすい小口を薬剤処理していないなどいい加減な防腐処理が多いうえ、壁内結露の防止も難しいため心配だ」と話す。ホワイトウッド論争をきっかけに、定期的なメンテナンスの重要性がユーザーに広まり、結露対策や防腐処理の技術が向上することを期待する。(荒川尚美)

「柱材として問題ない」  
実は、ホワイトウッドがヒノキやスギに比べて耐朽性や耐蟻性の面で劣ることは、木材の専門家も認めていることだ。森林総合研究所が作成した芯材の耐朽性区分で

ている木材なので、結果を知らせる必要があると考えた」と話す。

耐震強度偽装問題、姉齒問題に学ぶ  
「見えないところこそ大切だ！」  
総力特集  
**家が危ない**  
あなたは「最も腐れやすい木」で家を建てていませんか。

NPO法人国産材が実施した樹種ごとの屋外暴露試験を伝える記事。写真は試験開始から4年半の状態。木材はコンクリート製の板の上に置いている。記事はあんしんネットワーク実行委員会の機関紙「アネシス」2006年夏号に掲載されている

上の写真は雨が当たらないように箱に入れて4年半放置した4種類の材。左端のホワイトウッドは断面の一端が3mm縮んだが、腐朽してはいない。榎戸さんは「壁内がこうした過乾燥の環境を長い間維持できるか疑問だ」と話す。左の写真は試験開始から2年半のときのもの。手前のホワイトウッドにキノコが生えている(写真提供: NPO法人国産材)

上の記事に掲載されている写真は、4年半の間、野ざらしにしていた柱材だ。右端のぼろぼろになった材はホワイトウッド(オウシユウトウヒ)。その隣から順にベイツガ、スギ、ヒノキだ。「ホワイトウッドは非常に腐りやすく、シロアリに極めて弱いという重大な欠点がある」と記事は伝える。記事は、暮らしに関する消費者支援団体、あんしんネットワーク実行委員会(横浜市)の機関紙に掲載された。会員のホームページにも転載されている。ホワイトウッドを使っている住宅会社は、これを読んだユーザーから不安を訴えられるかもしれない。柱材を野ざらしにしていたのは、NPO法人国産材(東京・西東京市)だ。同法人理事長で榎戸材木店社長も務める榎戸正人さんは、「ホワイトウッドは腐りやすいとの疑いを抱いていたので、実際に確かめた。10年ほど前から急速に普及し、相当なシェアを占め

ホワイトウッドはすぐ腐る??